長門市の青海島観光船と木育キッズクルーズ船

2022.9.24　池田良穂

「日本の旅客船Ⅲ」の次は観光船・遊覧船とは思っていたのですが、その数の多さに圧倒されて調査・編集は遅々として進んでいません。それでも撮影旅行に出かける時には、地元の観光船にも目が行くようになりました。これまで行っていなかった場所に、山口県の長門市の青海島(おおみじま)があり、遊覧船が 12 隻も稼働しているとのことで、門司でのシップウォッチングの間に出かけてみることにしました。門司から 1 時間半ほどのドライブで、長門市の仙崎にある遊覧船の乗場に到着しました。青海島の、その先ですが、島とは橋でつながっており、橋のたもとに近い仙崎に乗場があります。道の駅センザキッチンの敷地に隣接しており、その駐車場は多くの車で賑わっていました。年間 70 万人近い来場者があるのだそうです。この中のどのくらいの人が遊覧船に乗船しているかはわかりませんが。

遊覧船を運航するのは青海島観光汽船で、島を一周するコースだけでなく、いくつかの遊覧コースがありましたが、当日は、北の風が強く、島の西海岸だけを廻る 50 分の赤瀬コースだけが運航されていました。料金は 1300 円。結構の乗客がおり、11 時 40 分発便では 3 隻の船隊での遊覧となりました。

青海島は「海上アルプス」と呼ばれており、断崖絶壁や切り立った岩、洞門などが随所にあり、遊覧船でなければ行けないため、多くの遊覧船が運航されているようです。定期便は最大 8 便ですが、利用者によって隻数は柔軟に調整しており、さらに観光バス等でやってくる団体のチャーター便も頻繁に出港しているようで、そのためたくさんの遊覧船が必要のようでした。

青海島観光船のホームページにあった同社の遊覧船の船隊写真です。先頭の 2 隻がやや大型の「クジラ船」です。

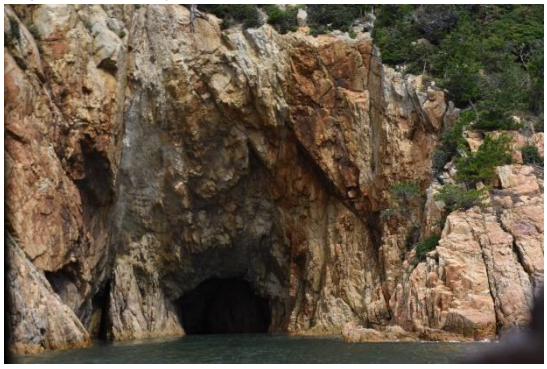
遊覧船の待合室に会ったポスターです。順番に遊覧船が洞窟の中に船首を突っ込んでは、後進で引き返します。通り抜けのできる洞門もいくつかあるようですが、当日のコースにはありませんでした。2 隻の「くじら船」が潮を吹いています。

岸壁には同じ形の遊覧船がずらりと並んでいました。

乗船は船首の入口からでした。

航海が始まると船はかなり揺れて、船首のガラス窓には水しぶきが上がっています。

横の小窓から先行する僚船が大きくピッチングしながら航行するのが見えました。



景勝地に着くとスピードを落として近づき、左右舷の窓は上下に開閉できるようになっていました。

大型の 19 総トン型は「クジラ船」と呼ばれており、「シータス」と「ピンクシータス」があります。船尾の露天甲板にでることができますが、狭い洞門は通れないとのことです。

もう一隻のクジラ船「ピンクシータス」です。

「どるふぃん」

「えんじぇる」

「どりいむ」

1 隻だけ船らしい姿の遊覧船「弁天」(べんてん)がいました。青海島観光汽船の発着場所に隣接する長門おもちゃ美術館の運航するキッズクルーズ船で、1 日 3～4 便運航されています。美術館に入場した上で 500 円の乗船料が必要とのことです。廃船となった木造船「弁天丸」をクラウドファンディングで再生して、「木育クルーズ船」としてミニクルーズを実施しています。木を使って子どもたちを育てるというコンセプトの NOP 法人が運営する施設のようです。